

令和7年度職員採用試験（大学卒業程度）  
衛生（衛生一般） 専門記述試験

次の2つの課題のうち、いずれか1つの課題について答えなさい。

= 課 題 1 =

○カンピロバクター食中毒の発生防止対策について

カンピロバクター食中毒は、厚生労働省食中毒統計によると、病因物質別発生状況において令和6年事件数が208件であり、細菌性食中毒の中では、平成15年以降、事件数において常にトップで推移している食中毒である。散発的な事例も多いことから、実際には更に多くの事件が発生していると考えられている。また、この食中毒の原因食品については、原因食品不明のものを除いて鶏肉・鶏内臓が90%以上を占めている状況である。

近年は、事業者の衛生管理対策や食品の温度管理の徹底等により細菌性食中毒が全体的に激減する中、カンピロバクター食中毒だけが一向に減っていないが、それはなぜか。その理由について、次の用語を全て用いてあなたの考えを述べなさい。

**用語： 交差汚染、鳥皮、菌数100個程度、食習慣、生食、加熱不十分**

また、カンピロバクターによる食中毒を防ぐためには、生産段階（養鶏場）、食鳥処理段階（食鳥処理場、食肉加工（カット・包装）施設）、消費段階（販売店、飲食店または家庭）の各段階において、今後、情報共有等を行いながら連携した一体的な取組みが不可欠となってくるが、各段階においては確実に対策を実施することが重要であると考えられる。そこで、各段階において実施すべき対策について、それぞれ説明しなさい。

（次頁あり）

## = 課 題 2 =

## ○広島県における地球温暖化対策の推進について

広島県では、「広島県地球温暖化防止地域計画」に基づき、令和12年度（2030年度）における温室効果ガス（二酸化炭素）排出量を、基準年度である平成25年度（2013年度）と比較して37.7%以上削減することを目標としています。

次の表は、県内の二酸化炭素排出量と削減率を、部門別に基準年度（2013年度）、現状（2020年度）、目標年度（2030年度）で比較したものです。

表 広島県の二酸化炭素排出量と削減率（部門別）

（単位：万トン-二酸化炭素）

区分	基準年度 (2013年度)	現状 (2020年度)	目標年度 (2030年度)
産業部門（製造事業者等） <sup>注2</sup>	4,094	3,191（▲22.1%）	2,685（▲34.4%）
運輸部門（自動車等）	613	515（▲16.1%）	478（▲22.1%）
民生（家庭）部門	579	414（▲28.5%）	246（▲57.4%）
民生（業務）部門 （商業・サービス・事業所等）	405	201（▲50.5%）	136（▲66.5%）
廃棄物（焼却等）	45	41（▲8.2%）	30（▲34.0%）
合計	5,736	4,361（▲24.0%）	3,574（▲37.7%）

注1 有効数字の関係上、合計値等が一致しない場合がある。

注2 産業部門にはエネルギー転換（発電施設等の自家消費）及び工業プロセス（セメント生産など）を含む。

（出典 広島県地球温暖化防止地域計画及び広島県環境白書）

このデータをもとに、「産業部門」と「民生（家庭）部門」において、今後、広島県が優先的に取り組むべき具体的な二酸化炭素排出削減対策について、次の観点に沿って、各部門ごとにあなたの考えを述べなさい。

- 1 現状やデータの傾向を踏まえた主な課題
- 2 課題に対応する具体的な対策及び県の役割
- 3 対策によって期待される効果

（次頁あり）

なお、各部門の課題については、表のデータに加えて、一般的に指摘されている要因等も参考にし、あなた自身の考察を加えること。以下は参考例です。

- 産業部門では、自主的に取組を行う企業がある一方で、中小企業では財政的な制約等から対策が遅れている。
- 民生（家庭）部門では、家電の省エネ化は一定程度進んでいると思われるが、少人数世帯数の増加や家電の大型化などによる増加要因があり、継続的な対策が求められる。